

〔積文〕

(※図周囲の青色文字のみを翻刻)

諸国 大阪 大地震大津波細見一覽

(上段の詞書)

嘉永七甲寅年

霜月四日巳之上刻

大坂大地震にて

人家所々崩れ或ハ

怪我人死人有之大ニ

騒動いたし候所同く

五日七ツ半時大地震

其上津波にて市

中大混雜一方ならず

流れ人家死人之義ハ

下の段ニ委敷しるす

誠ニ古今稀成大変恐

べしく、大坂市中

夫々町別ニいたし

わかり安く一紙ニ悉く

相認有之候、其外諸

国同様大地震つなミの

場所も有之、則左ニくわ

しくしるす

堺 地しんつなミ人家

流れ、はし落る

岸和田 右同断

紀州 所々津なミにて

人家流れ死人多し

尼ヶ崎 地震にて家数

三十軒余崩れ

灘 地しん

にて

人家大ニそんじる

西ノ宮 地震にて八十

軒計くつれ

播州 網干人家大ひニ

そんじる

赤穂地しんにて家崩レ

大つなミ流れ人家有之

土地われ泥吹出し、塩浜

ことくく大ニそんじ死人数

知れず

三田 地震にて七十

軒計崩レ其

近在九ヶ村にて

百四十軒計崩るゝ

志州 大坂同時の大

鳥羽 地しん翌五日

大つなミにて

御家中市中大かた流レ

込死人数知れず、其外

勢州川さき 松坂 津

神戸 白子 桑名

何れも同様

之事

尾州名古屋 宮

なるミ 津嶋 さや

右大坂同様地しんつなミ

大変

京都 丹波園部 龜山

右四日五ツ時より大地しんにて

五百軒計り崩れ、死人失人

数しれず

奈良 木津 伊賀 上野

右地震にて少々宛人家崩れ

大ニそんじる

(中段右端の詞書)

四日巳の上刻地震より同五日六日

ゆり通しゆへ、大坂市中皆々かと

中へ疊を敷、昼夜共往来にて日

を送りける、則鳴の内之所々有之候

絵図の通かと中にて寝申候

事也

(下段右端の詞書)

○霜月五日七ツ半時大地震ゆり出し

半時計の内俄ニ大つなミとなり、嶋々

水入人家ながれ死人夥敷、安治川口ヨリ

大船川中へ打込、木津川口へ別して

甚しく橋々大船にて突落し

怪我人死人数知れず、流れ

人家凡六百七十軒

死人凡六千人余

有之由、誠ニ前代

未聞なる事也

其荒増を

爰にしるす